To Office of Experimental　　　　　　　　　　　　　　　　　Date　２００２年１月１７日

Planning and Coordination

MACHINE TIME EXECUTION

REPORT (2002-4-2 CYCLE)

Experimental Group	T526	Reporter	佐藤　朗
Scheduled Period and Shift	2002.12.05.09:00- 2002.12.12:1700 (20 shifts)	Main, Sub, Para	Para

Experimenters 佐藤朗、青木正治、久野良孝、田窪洋介、野坂教爺、前田文孝、中原健吾、吉村浩司、五十嵐洋一、横井武一郎、Edward McKigney

SUMMARY OF EXECUTION AND RESULTS

今回のテスト実験では、FermiLabの研究者の都合によりＶＬＰＣによるファイバー読み出しのテスト出来なかった。セットアップには８シフトを要した。その後、マルチアノード光電子増倍管の電圧の最適化を行い、直径0.3mm,0.5mm,1.0mmのファイバートラッカーについてデータ収集を行った。前半の１６シフトはパラサイト実験であるＴ５３２実験の要請から-3.0GeV/cビームを用い、後の４シフトは+1.0GeV/cのビームを使用しエネルギー損失の大きな陽子のデータ収集も行った。ファイバーの端面処理の違いによる性能の変化を調べるために、端面を鏡面処理した場合、ファイバー両端から読み出した場合のデータも収集した。これらのデータは現在解析中である。

EXECUTED MACHINE TIME, BEAM CONDITION, DOWN TIME etc.

マシンタイム：１５０時間

ダウンタイム：約１．５時間

（内長時間停止したもの：12/6 14:13-14:51 LINAC RF1号機　サイラトロン交換）

COMMENTS

-3GeV/cの設定で磁石を運転中Ｑ２電磁石が３度ダウンしたが、端末で１度リセット２分ほど後にONにすることで復旧した。